

ロタウイルスワクチンの接種について

◆ロタウイルス胃腸炎について◆

ロタウイルス胃腸炎は、乳幼児に多く起こるウイルス性の胃腸炎です。ロタウイルス胃腸炎の原因「ロタウイルス」は全世界に広く分布し、衛生状態に関係なく世界各地で感染がみられます。ロタウイルス胃腸炎の多くは突然の嘔吐に続き、白っぽい氷のような下痢を起こします。発熱を伴うこともあり、回復には1週間ほどかかります。また、ほとんどの場合は特に治療を行わなくても回復しますが、時に脱水、腎不全、脳炎・脳症などを合併することもあり、症状が重く脱水が強い場合には入院が必要となることもあります。日本でのロタウイルス胃腸炎の発症は冬～春に多く、主に生後3～24か月の乳幼児に起こりますが、ピークは生後7～15か月です。生後3か月までは、母親からもらった免疫によって感染しても症状が出ないが、症状があっても軽く済みますが、生後3か月以降に初めて感染すると重症化しやすくなります。実際に、ロタウイルス胃腸炎は、小児急性重症胃腸炎の原因の第一位で、受診した人の10人に1人が入院する、という報告もあります。ロタウイルス胃腸炎の重症化は、ワクチン接種によって防ぐことができます。

◆ワクチンの種類について◆

現在2種類のワクチンが選択できます。いずれも口からのむ生ワクチンで、初回接種を生後14週6日までに行うことが推奨されています。

- ・ロタテック(3回)：何種類も存在するロタウイルスのうち、主な5種類の遺伝子組み換えロタウイルスが入っています。
- ・ロタリックス(2回)：5種類の主なロタウイルスのうち、最も一般的な1種類の弱毒化ロタウイルスが入っています。

それ以外のロタウイルスも構造は似ているため、1種類でも十分有効とされています。

両者の効果を直接比較したデータはありませんが、世界各国ではどちらも使用されており、感染予防効果と重症化予防効果は十分に備えたワクチンです。接種回数とワクチン代金で選択しても大きな問題はないと言えます。ただし、互換性に関するデータはないので、途中で変更することはできませんのでご注意ください。

◆ワクチンの効果と副反応について◆

ロタウイルスワクチンは自然感染と同じように作用しますので、所定回数の接種によって、感染しても重症にならず、またワクチンに含まれるタイプ以外のロタウイルスの感染に対しても予防効果がみとめられています。予防効果は少なくとも3年間は持続することが海外の臨床試験で確認されています。ロタウイルス以外による胃腸炎に対するワクチンの予防効果はみとめられていません。また、他のワクチンと同様に、接種した全ての人に予防効果がみとめられるわけではありません。国内臨床試験で接種後30日間に報告された主な副反応は、下痢・嘔吐・発熱・食欲不振などです。海外の臨床試験では腸重症症が報告されていますが、接種適応期間を過ぎなければ発生する確率は極めて低いとされています。

◆予防接種を受けるときの注意◆

- ①接種時に立って嘔吐する可能性がありますので、接種前30分は食べたり飲んだりするのは避けましょう。
- ②気温や来院前の運動により体温が37.5℃を越えた場合は、しばらく待って測りなおすことがあります。時間には余裕を持ってご来院ください。
- ③予診票は接種する医師への大切な情報です。よく読んで正確に記入してください。

◆予防接種を受けることができない人◆

- ①明らかに発熱がある人(37.5℃を超える人)
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人(下痢や嘔吐の症状があるときは延期してください)
- ③過去にロタウイルスワクチンの接種を受けて、アナフィラキシーを起こしたことがある人(他の医薬品投与でアナフィラキシーを起こしたことがある人は、接種を受ける前に医師にその旨を伝えて判断を仰いで下さい。)
- ④腸重症症の発症を高める可能性のある未治療の先天性消化管疾患(メッケル憩室など)がある人
- ⑤重症複合型免疫不全(SCID)がある人
- ④その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した人

◆予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人◆

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの人
- ②発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている人
- ③予防接種を受けたときに、2日以内に発熱のみられた人及び発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う異常がみられた人
- ④今までにけいれんを起こしたことがある人
- ⑤過去に本人や近親者で、検査によって免疫状態の異常を指摘されたことのある人
- ⑥胃腸障害がある人

◆予防接種を受けた後の注意◆

- ①接種後に重いアレルギー症状が起こることがあります。接種後はすぐに帰宅せず、少なくとも30分間は医療機関にいるなどして、様子を観察し、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。また、ワクチン接種の副反応を正しく判断するために、接種後30分間は飲食(授乳)を控えてください。
- ②接種当日はいつもの生活をしましょう。激しい運動は避けましょう。
- ③万一、高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ④腸重積と思われる症状(ぐったりする、泣きと不機嫌を繰り返す、顔色が悪い、繰り返し起きる嘔吐、イチゴジャムのような血便、お腹の張りなどがみられた場合は、家庭で様子をみて症状を長引かせないよう、速やかに医師の診察を受けるようにしてください。
- ⑤ワクチン接種後1週間程度は便中にウイルスが排泄されますが、排泄されたウイルスによって胃腸炎を発症する可能性は低いことが確認されています。念のために、おむつ交換後などワクチン接種を受けたお子様と接した際には手洗いをするなど注意してください。特にご家庭の中で免疫系に異常のある方がいる場合には、ワクチン接種を受けたお子様と接したあとの手洗いを徹底するなど注意してください。